

古今俳諧明題集

五

~ 5
1529
5 正



5
 明利
 番 1329
 卷 5止



古今俳諧明題集雜部目錄

雜カク 春 初葉
 復 十一葉
 冬 卅四葉
 卅二葉

紀行キコウ 春 從初葉至五葉
 復 從十二葉至十六葉
 冬 從廿四葉至廿四葉
 從卅三葉至卅四葉

留別リウベツ 春 五葉
 復 十七葉
 冬 從卅四葉至卅五葉
 卅七葉

題詠タイエイ 春 從六葉至七葉
 復 從十九葉至二十葉
 冬 從廿八葉至廿九葉
 從卅五葉至卅六葉

漫興マンキョウ 春 初葉
 復 從十一葉至十二葉
 冬 從卅三葉至卅三葉
 卅四葉

送別ソウベツ 春 五葉
 復 十七葉
 冬 卅四葉
 卅七葉

贈答オウタツ 春 六葉
 復 從十七葉至十九葉
 冬 從廿七葉至廿八葉
 卅五葉

題画タイガ 春 從七葉至八葉
 復 從二十葉至廿一葉
 冬 從廿九葉至三十葉
 卅六葉

古今俳諧明題集雜部目錄

ふ思にききして後や松とく先
金井

紀行

羅旅立春

ハタゴヤ
一合ハ後ぬと善やのり
涼備

芳野山

山はくく一里かどへく屋にり
喚起きのあひえてのり
手をあて暴伊すく後や芳野山
三橋

お波多姑あにまごが山海々を
後又くく花にのゆく神を歌
奇生をもく様しり
ゆーゆーゆー入海をや神様
芳野出く
世の申は赤ハ不思識で芳野山
妻は赤ハ梅に

書寫山

何をきき何をくして帰海雁
全 涼備

古今行状月題集卷之五

巖梅 のゑひらめ

まゝ海へ先や柳の大さ〜ハ 涼備

石勒山 いさる

旅啼く石りのいさぬやほぢうを 司鱸

袖浦 こてう

浦の名は袖海出〜ハ 汶上

駿河 がまら

駿河の海は〜ハ

あ〜うをきさ〜ハ 涼備
不あはき里〜ハ 全

伊吹山 いぶき

あは〜ハの二日もき〜ハ 伊吹山 全

野上 のがみは

麻のやま〜ハ 全

いつきの海 に

いづれ日も入れ日も見〜ハ 全

古今戸部月長集卷之五

二見 浦ふたにのうら

燕の尾や少りしけく二見 写 栞居

鵲石アラムセキ

おろく驚くそやおが該目 水樹
くひもやういよをうりる一つ 西羊

描金松まきまのほつ

り雁や描令に乃ほ松のく 希因

曹山かぶと

志之終に川田をうへさそく曹山 西羊

宇津山やづの

夜廣う宇津の山時比 若下子う奇 希因

鞠子山まぼこ

夕ひちやま〜暮さぬや鞠子山 五菱

猿尻世の 要

舞衣の踊らちうけく柳う奇 寛之佐治松本

柳浦 ヤウラ

縁衣やあまは海浪にまじりて去る 涼備

草葉 破目

こゆ歌

ゆくはまをば春を見まぬ木の芽は 全

くさぐさ

山崎まゝにやうゆうー 草ミレクサ 芭蕉

寂ろく若くは海やぬぢは 全

若くはうらうらにやまゝ 絶頂 全

り あはれ 久遠へ志海海やあふ 凡山
あはれ 上つ市の園に春の菓山 可登
亦何ぞ橋はおかくさたか 破了

送別 ソウベツ

ゆく春をよのひとと 芭蕉
言かきみ何 野坡
梅さう 江 利牛
唇のあ 支考
夏への 麥林

古今片歌明題集

挿花ケイ

の日は飛ヒやま〜梅のむ

夜代は乙

一音法作甲斐のくはり
後山又むと〜ゆくを

旅に又旅路カか〜よを返さ〜

涼備

一系材俳仙座に
四くを返す

棋ゴもあ〜む月日の進イハヤき座ハにハ

全

留別リウ

ゆくまや多啼クく魚の目ハ涙

芭蕉

女ハあ〜り
春ハゆ〜に

菱並ヤや秋トと冬ト冬のよ〜水ミ表

麥林

夏ナツ繁山ハに文フ戒ケイ〜
クハ海時

おまや木魚キに舟フネの猿サ泳ユ〜

西羊

贈答オウ

音叩ネを土ツチを

付ツかカにニあアるル

飛ト込コとハ見ミ〜さりシハ花ハ名ナ重チ

涼備

見ミはハ重チ

水ミに又マ影カゲでデ〜るル良ラ片ハ〜〜

曲江

い〜く瘦ウ〜人ニの〜又マつツ〜
〜古コ〜おれレを思シひ出デゆユ〜

あは合ア〜てかカも肥ヒ〜芒マ針ハ〜お

宗祇

繫ツ〜がちチ〜
〜

招マも〜若ワ〜岳ツ土ツ衣イの友トモや〜尺ハか〜〜

冠子

題詠 タイエイ

外新梅 カハリヤウバイ

け梅の尾ささやきに三日は月
領下をぬきむやう先のを

涼備
柳居

後好 コウキヤウ

糸袖の我袖をけりぬか

大坂
舊國

性長のうけを

おと後受好ありあは恒忠梅

治徳

照顧脚 セウコロキヤクカヲ

りあそそそも若子見えあ

麥林

有心無心 ウシンムシン

そそ日法人いあ水どゆくほ

涼備

題畫 タイガハ

西施之圖 セイシノツ

海棠の枕をさけあ

猿左

古今片歌明題集卷之五

見ゆらに素へぬけりや 素へ 君 君 薙 薙 白木

賀 賀

夏 夏 のさがあり

いふ人をやぐ

後に 後 舟 舟 をへふと見 見 ー ー 門 門 の松 松 季吟

あけ あけ らるる

つぎ つぎ へ行く

や や 梅 梅 や 橘 橘 枝 枝 の末 末 を 芽 芽 ば ば ー ー 紀 紀 加賀 万子

可 可 由 由 が 書 書 ぬ ぬ ら ら ー ー 紀 紀

る る ー ー と と ず ず る

縁 縁 に 抱 抱 く 雛 雛 像 像 も 待 待 べ べ ー ー 橘 橘 の や や ど 涼 備

七 七 十 十 の お お め め る る を を

不 不 ぐ

ハ ハ ヲ ヲ 頂 頂 も 見 見 く く ー ー ー ー 家 家 此 此 塔 塔 け け ー ー 全

丁 丁 也 也 が

い い ら ら を を 不 不 ぐ

あ あ べ べ ー ー 身 身 づ づ ー ー 飲 飲 む む 酒 酒 を を 全

悼 悼

い い た

い い ら ら の の 作 作 也

船 船 へ へ 土 土 遠 遠 くて 悲 悲 ー ー ー ー め め ち ち 花 花 見 風

母 母 の の 身 身 づ づ ま ま ー ー ー ー

い い へ へ に

忙 忙 しく く 徒 徒 草 草 中 中 へ 海 海 春 春 社 社 や や は 鬼 士

死 死 に 来 来 ら ら ぬ ぬ 文 文 彦 彦 の の も も ち ち 名 名 信 信 支 考

煙 煙 ー ー 見 見 て て 衣 衣 る る ー ー 夕 夕 か か け け み 冠 子

孫 孫 ー ー 時 時

よのちびの煙にほろり 枕もと 全

追善

圃ハタのこまに秋や極のま 大阜

懐舊

碑イシツミの月にちろくく 橋々を 希因

花の一首を
あせーとを

夢に思ひ咲オクリにおもはさく 々々を 夢林

父の塚

襟エリの遠く杜が づつ々 深魚

敦基の塚

縁レリの下に蔭レイくハ 懐むもみまうか 凉保

芭蕉庵の
伝を記す

をうんぐさ小橋あひり 泣やうん 水

祝詞并唱句
をかへこ

梅天神
てあをうんの

古今戸部明集卷之五

近江膳所
曲

時に実もいづるも自在や梅の花 研水

麻 清 ほう

草にして露を垂たり紫葳のむ 凉 侘

伊 勢 いせ

何れ木の花とも去るにわひを 芭 蕉

たるとさや扇にたまふ様 希 因

唱句

文 殊

あはれも意をかきくして 暁 橋 加賀小松 山 叩

同

浅 草 くさ

今もその網や ぬぐう 好うす 未了

同

池 と かい

八景の道たもゆきりも 鳥 谷

古今片歌明是集卷之五

須磨 まよ

章魚壺ツボにまろき夏や夏ま月 芭蕉

卯月八日

堅田にあそびて

灌佛や湖を鹽シホの浮舟ウネも 汶上

涼スズきや柱杖に袖の帆フネけ船 全

淡路を

経る

夏まに牛ハまろしく水くはま 希因

箱根路 まろ

湖の下ゆく水や夏こくら 不殘

西の岩 さいのい

桑クサにく海うみ罪つみさく水みづ小 涼傳

出流いづ山石やま窓まど

並ならみをかをまろしく海うみ表うらみの水みづ 一龍

卯月の まろ

本もと着きハまろしくもおろしく夏なつ茶ちや花はな 支考

回一ころ

城の山あえ

日阿ころハ夏草多うう

様

涼備

子條

扇の紐うけてみゆあつさ

漁遠

姨捨山 てむま

祖父祖母もけ時持る田うう

涼備

川中崎古戦場

たし野に入みふても田うえう

全

磯家

おせむ家く押お戸ねか

布穀 カンコトリ

全

高野山 カウヤサン

糸目にも柳と見く涼はよ
抜るも扇も涼はよ

麦林
鬼土

石山 やま

志つうや岩に志入侍様のも

芭蕉

本音 ちきそ

古今詩歌明題集卷之五

十四

搦道カケや人の体すぬ木下やニ 深魚

醒井ゲサメ

一トに脊中此かかく志ニ 美白

閑清水セサシ

湖ミヅウミ志目を御ニ 鳥醉

大井川オホイ

是でして大井川色ニ 一鼠

路傍柳チヨウヤナギ

田一タナ 塚植ツツキ 立タチ 海ウミ やなニ 芭蕉

鐘カネ

波ナミ 以ヨ 新ニホ 葉ハ のノ 裡サト やニ 鐘カネ 松マツ 芭蕉

家上川ケウジガハ

異々イイ 日ヒ をヲ 海ウミ にニ 水ミヅ 上ノ 家上川ケウジガハ 芭蕉

五月雨イツメ をヲ 集ツ めメ 子コ 一ヒト 家上川ケウジガハ 全ツ

不破園フタトウ

古今片歌明集卷之五

菊にようりハ見くく不破志園 楚調

野宮のや

白^ウ荊^{ハナ}花も色く思木のうりぬか 麥林

交^マ草に瘦くくろ本れき 希^カ因

我^ワはまきのまもさびし 櫛^シ半 兔^ウ士

木生時 ちくふ

涼^{スズ}しきや海にうまゆ^マ竹^{タケ}生^ナ時^{トキ} 素^ソ輪^{リン}

教^{ノツ}せ^{キウ}ス^シ

やうひくくるにぬくくなくぶに 一鼠

子^コ賀^カ浦^{ウラ}ら^ラの

帆^ホに^ニり^リく^ク教^{ノツ}へ^ヘく^クせ^セ夕^タま^マみ 全

宇^ウ津^ツ山^{ヤマ} や^ヤつ^ツの

首^{ナカ}若^ガも^モ射^シく^ク晴^ハし^シ 許^コ六^{ロク}

か^カも^モい^イも^モ何^{ナニ}り^リぬ^ヌ山^{ヤマ}路^ヂや^ヤか^カむ^ムこ^コ中^{ナカ}里^リ 乙^ニ路^ロ

在^ア系^{ケイ}を^ヲ

いひ

古^コ井^イ戸^トを^ヲ開^ヒき^キに^ニま^マ八^{ハチ}海^{カイ}あ^アつ^ツさ^サ水^{スイ} 儀^ギ城^{シロ}

くはく

涼しきやはけしきく不二に後むき
伊勢射和 三千風
 不之はなどたつとも志れは言は家
西羊
 小棘繁魚さ良柝涼しや管下か家
芭蕉
 息つきに柝のえゆか夏野うか
蒼狐
下是利 女 芝
此は松本 素因
 系糸の杖にまぐかや不しき
同長光子 文 兆
 かくふは体の海雁おちはるむ
王貞
 短衣や東の星ハるにあハバ

送別

麦の穂や出ぬけくも花麦 春中
野坡
 浦河やゆづる橋横のまを以 際
岱水
 祖まろくはにゆく時
岸倚日をちまうて
 死侍よるまろくは日や不くは
沾徳
涼浦 伴歩に
ゆくを
 合款をゆく時野に飛ぶや 橋
希因
僧に
己く時
 麦侍時の名やまろくは 粟 粟 花 苑
尾城 越人
 麦侍時ハ又吹くは夏やるむ
麦浪

古今片歌明題集卷之五

留別

飛ビかへ侍陸枝のそも路ちうー 涼備

常柳命を出侍時

涼ーさを出るゆく水や柳かど 全

贈答

舎屋まうりあふ侍

短衣の紙ナガリはイヒキ中ナカ新イヒキ十トウはハッマ 支考

柳居ハ東にゆり

あハ水に久侍

又久侍や望しくの練ネ若カ子コ 希因

そいーく

麦水に久侍

り遠トふまやそちチはハ不フとトさサ 全

あ侍人をそ失シにニあア侍の心をあも

さか

るル心ココロのノあアふフ侍シ一ヒト黄ワウをヲー 大賀

午時のふど

竹麻糸にやまふ

報ヒル子コ花ハのノやヤどドりリにニハハ枝エ扇アあア 甲 涼備

源城かいら

おろーり侍時

望ノゾ海ウミをヲ先マ利リをヲかカハハ侍シ 全

人の結ひ

り侍に

ふのいやア系ケイへヘあア侍シれレ杜ツ 鶴 三千風

古今片歌明題集卷之五

仔細深にありて後

おくりしきりぎりす

麦芒束の笠つくりてや

涼唄

十八橋

けりり目に見ゆ侍の皆涼

芭蕉

杜若を

そめ

やぶらぎよ人に百合の鬼もあ

希因

麦浪亭

そらりり 涼の蚊帳ぞ夏はら

涼唄

春ははらけとて高き羅のあはれ
母はうらぶき林もなきを

懐くちの春さへあはれあり

全

吸あなろのあはれを
かたじけなく

松ハカ 一 飯の伊をあ

素園

古山亭

涼くさや ざん 並 並 山もか

麥林

昔は並とてはに昇原の梅も園
西よりのせりたりあはれに

道ハ秋のなきふれと梅は友
とひひし夏もあはれにうら

禪の 居ぬ 多ひもつけ

涼唄

あををてひこころを
あきらかに侍人

二 月 居ぬ 守 家 だ の り

全

加の大系も

短 衣 子 に 臥 も 人 八 眩 ま

南廬

短衣やまほど文はく昭くも
みどろ衣やあつけく疾も物

西羊
彌波並に何
廿藤波

題詠

竹息

すのふみやつはるきやどハ杖もるり

春魚

大道廢有仁義

一人すく海の音も哀に涼きり

涼鬼

皆是吾子

眼良麦や照海も星も影も茶はぬ

希因

漁父辭

香ひとり晴はハ長くぬかす海小

素輪

鸞鳳伏窠鳩巢翔

柳海やまほしを付くまに茶了

玉負

外面似菩薩内心如夜叉

うつくし人ときき命いむく小

左琴

教戒之圖

あゝこの時を見せしや百舎は也 西洋

題畫

扇の不安のぬい

涼一さや富士に柱のくは降つるを 涼備

達摩

官へむいりびとをひいさる布穀 麥林

布袋

あでしこにぬや機せし夕涼い 全

大黒

ありあげと極く物さうかしくを 涼備

幡

けそへ御旗も信さればつるや 全

草茶

仕人ひと鐘の中る宿異さる 江祇負

笠角くそた侍杜鶴の画に

うらひを此息女ハスメウ啼ウぬふとそに

守武

賀カ

拾取カが病ヤリ

たて侍をなく

只ヒすのあしでハをうかこつり

涼侍

病ヤほをなく

百艸のあともをうりさるる雨

双飛

ふたまりり侍

報ヒルガホ子シも妹イモたむいそが

許六

ちりめく一トそあに
師シ弟テまうけ侍人に

まのぬより船フネ像イくくそて懐マ

路通

悼イタ

児コをうりそひ

侍人

世の夢に似ニそやまし百合の屯

支考

おもくけは帳ヤ帳ヤにも透スくばり

麥林

れそふ人の力よか
うりそひ

身ミハせ先マく帳ヤに様サマひ床トはし

社文車

夏ナツ瘦シマと地チに暮クへ侍サマな

日か侍

懐クハ舊キウ

去倚きのハ珠——々ゆも夏こころ

麥林

田菴を

たふし

凍——さや此唇をさく位もて——

曾良

麦林の碑

一持ハ何處へ居——くまこころ

柳居

高館 どたち

夏 ツハモ や兵士ともが夏のあと

芭蕉

字 シ 治 シ 江 シ

御落馬の西も夢び合飲のそ毒

南都 長江

柳 浦 ヤサダ

蚊 ハ 蟻 ハ ぬれ ハ 悲 ハ —— 波 ハ ほ ハ くら

涼城

曾 ハ 承 ハ 兄弟の悔

赤 ハ 團 ハ の ハ 色 ハ とも ハ 水 ハ を ハ 夏 ハ ツ ハ 林 ハ 草 ハ

全

祝詞 シ

いふごらや 夢を流して 神カミ魚イサ 麥林

鶴岡つるが

涼スズシ 旗ハタのうぐいも書出下 涼佛

秋 雜

路のやツ家カ此と志杉をそるル水ミと
 とゆくト下カ本ホ家カや路のそ
 帳カ帳カたむカあや銀ギン屏マシのハ枝エとキ此
 実ミ沼ヌマで松マツのノ尾ビとトもモかカ 志シいイ路
 沼ヌマのノそソ不フ衣イをウいろロくクにニあアりリとト
入月イツキ初日ハツヒいイまマみミあアつツきキ此
せらせららなりなりりりとといいむむ
 纏マタううけけ夏ナツハハ糸イト更さらりりりりとといいむむのの何ナニ哉
 入イ月ツキやヤ六ム日ニチもモつつののああははににハハ水ミヅをを
 芭蕉 白枝 江エ竹タケ尺シヤク 禪ゼン師シ支シ盤パン 考カウ 凡マン兆テウ 其キ角カク

漫興マンキョウ

古今行状明題集卷之五

九三

象店ハ蘇葉藩に交信むううう

禪師 鐵牛

入 菴

佛偶ハあるをいしやまきくを

得牛

地務ういかり

縁屋ハあはしに白くや障障

涼俵

お陰もはめをきりきりくを

全

紀行

志波浦

巻下くの乳にもかくさばり比月

涼俵

羅洋寺

おろろ羅洋もけりさの路

全

野宮のや

とけ入侍や板も沼のまき小柴垣

雲郎

る麻さたいま

番ハ皆糸の文もさるのさる

冠子

遠崎かさき

いむらまや遠崎もしき波のこ

一氣

鶺鴒石 アラムセキ

けんの^{ウチ}中ぞゆく〜き沼のうき

麥林

三井古き見流〜
湖上の月を

るせ序は月の景色にあらは波

季吟

文級 はら

をむ持中〜草の強ハ忘せり〜

紙巻の田
素琴

そしとこに文級川中〜蕎麦をむ

園女

淡路崎 あぢ

霽〜ゆく霧の満々あそち志は

伊豫松山
陰六

大磯 〜

そねはは袂が〜や後と月

青藍

くさ〜

船中

るはやく〜ハそめてもらぬ柳〜

涼楓

一長ハ中にも〜
〜は〜

きさ〜を家の情中〜をこか〜

上総長南
枕雨

涼のこころに

うらみでしは

岩^{カド} 稜^{カキ} 此^{カキ} 欽^{カキ} ゆく 鷲^{シウ} や 涼^{リウ} の 水^{スイ}
 あく 海^{ウミ} や 依^ヨ 後^ゴ に 撲^{ムク} して 涼^{リウ} 川^{セン}
 曙^{シウ} ゆく 中^{ナカ} 廿^ニ 七^{シチ} 庚^{ケイ} も 二^ニ 日^{ニチ} 志^シ 月^{ツキ}
 涼^{リウ} も ちや 二^ニ 日^{ニチ} 庚^{ケイ} や 家^カ 此^シ 志^シ の
 涼^{リウ} の 日^{ニチ} 乙^ニ け 入^イ 倚^イ 青^{セイ} 中^{ナカ} 枝^エ 枝^エ 七^{シチ}
 馬^{ウマ} 驚^{オドロク} ち 管^{カン} の り み ち と 誦^{ソク} 希^キ 月^{ツキ}
 涼^{リウ} に と 立^{タチ} 向^{ムカ} ち ち り り 不^フ 破^ハ 志^シ 月^{ツキ}
 身^ミ に 志^シ む も 稽^キ ち 稽^キ の 山^{ヤマ} ね ろ 一^{イチ}
 兼^{ケン} 葛^{カク} 麦^{マク} の 聖^{セイ} に 志^シ ち 稽^キ 明^{メイ} ち 稽^キ
 九^ク 月^{ツキ} 九^ク 日^{ニチ}
 うらみやちにあはるる

凉^{リウ} 芭^ハ 蕉^{キウ} 全^{ゼン} 支^シ 考^{コウ} 雲^{ウン} 裡^リ 希^キ 因^{イン} 五^ゴ 竹^{チク} 凉^{リウ} 備^ビ 湖^コ 關^{カン}

こころは又來侍る中 青藍

送別

秋風^{アキカゼ} 送^{ソウ} 別^{ベツ} 辞^ジ に 回^{クワ} 稽^キ 一^{イチ} の 林^{リン}

伴智の入世轉多ははに

兼崎に涼をたむは稽古の色 凉備

留別

青^{セイ} 藍^{ラン} の 作^{サク} 中^{ナカ} 一^{イチ} が 稽^キ 古^コ の 色^{シキ}
 青^{セイ} 藍^{ラン} の 路^ロ に 稽^キ ち 稽^キ の 色^{シキ}
 月^{ツキ} 此^シ 涼^{リウ} 兔^{トウ} は 涼^{リウ} へ 日^{ニチ} 一^{イチ} 月^{ツキ} 一^{イチ}

榊^{セキ} 居^イ 麥^{マク} 林^{リン} 凉^{リウ} 兔^{トウ}

小枝 美るる ちやうほに

芭蕉

物まきく 扇ひき 出く 日く 水

芭蕉

社中の

くくく

いろく にく にく にく にく にく にく

涼休

贈答

是く ぬハ 扇む くり ぞ 揺る け

涼休

紫菀 にく にく 扇 度 中

支考

喜梅 夕侍

俳仙 窓 にく

お 渡 小 女 も なる にく にく にく にく

涼休

喜 藍 ハ 白 社 女 侍

は ぬ け ぬ 人 と け ぬ

蒲 菊 にも 乳 少 ち ぬ にく にく にく

全

涼休の 格 法 や ぞ ぞ

ちや ぬ け ぬ 人 と け ぬ

お ち 白 菊 と 蔓 を 動か ぬ にく ぬ にく

希 因

や にく にく にく

白 に あ ひ にく

この ぬ の り み ち に 憇 ん 女 にく にく

江戸 秋色

波 光 祿 師 法

あ け け ぬ 人 と け ぬ

涙 水 を ぬ ぐ にも あ ぬ ぬ 菊 法 師 法

涼 休

涙 水 を

く にく

お 秀 や 二 度 にく ぬ け ぬ にく にく

上 毛 西 菴 光

格 法 や 白 隠 禪 師 法

福 法

不 老 見 せ ぬ 是 何 ぬ ぬ 秀 法 師 法

青 藍

題詠

三界唯一心

蒲草や蔓一こころは心よ子 素園

三足猿

木と月はこに代作やく中は猿 凉備

如是我聞

熱閃や二度めにそふまはる橋 白錯

皆是吾子

櫻桃はるぬ子もなき彼者々 沾徳

三笠山石墨

若の歌うつゝくゝるはい海 凉備
是は名の石をにどむや麻衣いろ 素園

貪着天上月失却手中珠

行海はつまはくくやうゝる月 上毛桐生 宇冲

機關木人

夏の夕人にとそはか〜く春

下島辰中
柴花

題畫

骸骨

竟ハうな麻の骨や沼まほ

麥林

兔

耳とつ〜涙もかよひをほき〜

兔士

狂画達摩

壁にや嚏のありや沼のくは

鬼山

懐故の夢を押しつて

蒼よりらんぼハ物もろごうさ

西羊

羣鴉明月之圖

扉にま〜ぐのわ〜し〜し〜月

代徳上田
麥二

加貝

家の縁あぐら
りほ人をやぐ

とけ〜牡丹に富〜海まらる

琳季

石の詠

たまり〜りほ人〜

時もうへに絶つ馬に於杖をくた 酒堂

悼 いゝ

季年花中をくあさあハ月け飛 采仲

目茶は鬱令の花もろくくう那 杉風

此時をそさあくくあーくは 季吟

母カ目あつーくろくくー時
ふせろくをけろくよあに季はあ
くせーが日あーくは

目もあは志あろく時した記をくあ 能登七尾 有英

希因カヨろくくー

情帰もあろくあづくあろくのく 涼輔

九月八日芝山の事

あまろくくぬせにけくまてや菊のあ 全

九月十二日双飛

人の親中も粟にむせろく十之 全

母の巻にこりり
くあくー

吹にそあはもはあるれも海もあ 麥林

麦林作

登運が芒今あはろくまかあ 希因

懐 クイ 舊 キウ

一 笑が孫をくま

極も勤け秀^{ナカ} 哭^{ナカ} 名ハ 海^{ナカ} たる^{ナカ} 歩^{ナカ} 芭蕉

大和のふ代女ハ男又まゐるむ好く
妹セ侍りのどもれおふくもりしを

大^カ 文^モ 字^ジ の 火^カ も あ^カ つ^カ け^カ ハ 昔^カ 姑^カ あ^カ し 涼^カ 俣^カ

父いませし時酒を
このこ終ひりしを

結^キ 州^ノ 中^ニ よ^キ り^キ ぬ^キ ハ 新^キ 酒^キ の 父^キ 老^キ し 麥^キ 汀^キ

柳^ヤ 浦^カ
がうら

月^{ツキ} も び^{ツキ} や 底^{ツキ} に も 海^{ツキ} さ^{ツキ} み^{ツキ} や^{ツキ} こ^{ツキ} も 涼^{ツキ} 俣^{ツキ}

實^シ 盛^セ 之^シ 由^シ

む^ム ぶ^ム ん^ム や^ム ち^ム か^ム ぬ^ム と^ム 終^ム ト^ム の^ム 玉^ム 子^ム く^ム も 芭^ム 蕉^ム

信^シ 玄^ン 之^シ 古^シ 城^シ

々^ク 見^ク 見^ク を^ク 帷^ク 幕^ク の^ク ち^ク も^ク を^ク ぞ^ク ち^ク 涼^ク 俣^ク

祝^イ 詞^{ハク}
の^イ つ^{ハク}

菅^カ 神^ミ

一^{ヒト} 雨^{アメ} や^{ヒト} 日^ヒ の^{ヒト} ら^{アメ} ら^ヒ も^{ヒト} 神^{ヒト} も^{アメ} ち^ヒ 希^{ヒト} 因^{アメ}
松^{マツ} も^{ヒト} あ^{アメ} 海^{ウミ} も^{ヒト} 車^{ウラ} 枝^エ 丸^マ 賽^ウ 珊^セ 柁^ボ 梅^{ウメ} 路^チ

太^タ 宰^{サイ} 府^フ

街^チ の^{ヒト} 彼^カ に^{ヒト} あ^チ ち^{ヒト} 砂^サ ち^{ヒト} や^チ ら^{ヒト} ち^{ヒト} 涼^チ 俣^チ

古今戸部明題集卷之五

冬 雜

人の歌後ききあをまほし 雨石

漫 興

み降るるをい 宿をすけく

飲轉に加茂川おちちどまろか 京 浮風

おりのうけた 路にあへはに

ま袖に時何となく 一いれうを 維然
暮の香あうごきなむぬべ 大和佐保川 乞骸人

紀 行

文字 関 せり

葉の多はよまきりやうららとまほ けふと 卯七

藤母八日 山越く

藤ハや山越吹ゆまる 油 名 凉 城

越の候つゝ

うきもや夏も後ハ親 志ハ此 汶上

映 旅山 をむと
てやま

持〜〜映のハ聲や 旅をむと 琴詩

あ 宅 閣 あたら
のせき

言は兼 之の 峯中をうちたしを 京 映山

若 松の 山 旅えして

月も日もこゝろ〜〜や 旅はのりぬ 冠子

隅 田 川 をめぐ
る川

船 汎の 是さ〜 春も〜 冬も〜 山 旅

竹 生 時 ちく
しじ

水も此 竹生時 竹生時 竹林

是 利 子 換 ア
シカノカ
コウ

毎 事 には 宜ハ 是し 冬も 春も 武 橋 原 儿

く さ ぐ

旅人よと名を呼ぶまじし神よ水芭蕉
枯くさびしやとに焚く火さく理然

送別

あまのこ二人の痕やまは旅桑人

強通に

さうあつ時

見や海を旅人さきしる旅山智月

冠子古々に

序書を

うやうやんや尾張の女らどぞ涼威

留別

あけしつがきしとつみく日かき水岸虎
尾張路ハ後にひし海草若か参林

贈答

藤之原作の

室

行く海海佛もおかき本五原伴

さあの人

あまのぬきや牡丹に寄あふ成希因

何し

桑は花や汲でもあふ火たきも全

あは信を

志がしを失

拓葱に履や姉して地を^{カキ} 全
寺沼ハ皆ニ切儘の枯野々那 一音

六歌仙

酒^{コダツ} 二人あよ侍や歌何ハ歩 凉唄

東坡

香りのとねくへと煙ー並比寄 其角

莊子

襟と何に羨ハき理ど何縁計 凉唄

賀^ガ

あつたに吹奏巻の

るれ皆に

喜此かい船原の通や^{カキ} 入楚

悼^{イタ}

かきくを並にかくも中枯芒^{ハナ} 其角

十月を羨くとばくまかへもを春 嵐雪

麻も喜をゆりさびし地野山小 支考

カウや縁をかえくもこりま 野坡

年の終り世つがの思うるひ
うふくろく

凍香のつらむも見ぞう先のちぬ 守武

中あの人忠
あまうをいかに

やほまいぞ見うしあふふ友ちとら 麥汀

懐舊 クハイキウ

芭蕉塚 むせを

葉をくりけふや松やうにそまき 角上

友人の
あさあしを

葉へういたるぬを啼くや友ちとら 麥林

於カシ掌ハテに不フ思シ誠マコトの海ウミ宿ヤド露つゆ葉ハ小 秀橘

二官神

袖スズメハ皆みな涙なみだ夜よの像すがたやそそのう先 其梅

春もろくむいひをうく海に
叶神にすつ

小こ整ととのの敷しきも本もと結むするにや 涼儀

上世片歌

○古事紀 いささかみよみふといもいささかのみにけはつとけり
 吾と汝とは天の御柱をゆきまよひてここのまをりひ
 せりしにかちぢるるつひにやればよめいさなまの
 みこまのつこあげたはり
 言
 あかにやーえをこめを 愛少女
 後にいささかこのみよと 愛少男
 あかにやーえをこめを

○檀原宮御宇天皇代 カニハラノミヤニアメノシラススミフユトミヨ 武神
ツチ オホモリスレ
 言依立野に何そはせしりのをく免れ申小大物をけ神の降

ムス 娘いよもよも娘もいほせ侍しを大久采の命あつろふををて
オホ ココウナ 志くくとおらんまへにやせりやぐてまろろをまろく先して
 御誓效のみすして若狭に

且 スメラミコト 最 先 立 愛 卷 天 皇
 かつくもいやささたて侍えをしまろひ
 則いよもよも娘に大久采の命詔出つふおれ時を懸利目
 をえくあやとねがして

天地取坐登互利所懸利目
 あめつはちとまよーことおとさけるため
 善く

大久采の命

古今事類通考卷之三

ふらんはうと清和の歌のこしてさひほひりゆを

女鳥王

高往 鶺鴒 別 御衣 豫 豫 豫

○日本書紀

天皇くつこのくがひのを矢ぐとおほせど后の

海とみまひふまらうえのさをあまこと一海よりそのさう
つれをさうむひこをさういすれこあろをさあぬくふ
あしを給らん

天皇 德仁

水底経 臣 少女 誰 将養 かハビ

みかそくふをこのをとのをたさやしかハビ

○古事紀

天皇とよのあつりー給らんこはの國はひた給に
いでまは時その時にかまは子うの海をえそまハして大御
まみしてさひほひりゆを

武内者依

汝皇子 終 治 雁 卵 産

○葛城忍海之高木角刺宮御宇天皇代

清 寧

あひのをこくくうにたちて素那の命はよまんと志
たまふをみなのよをさう

志昆臣

大宮 彼 果 隅 傾

おみみやのをこつはたてをさかぬけり

さくばをり女婿ハ親のまゝにさくばをり親をけりさくば
川をさるむはり親

おるぞー

川舟の鶯は志つゝにぬ高きをたふさ

ねぬー

お月舟は志つゝにぬ高きをたふさ

○むし大船のがーのさくばをり親のまゝにさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり

さくばをり親をけりさくばをり親をけり

かー

さくばをり親をけりさくばをり親をけり

○むし大船のがーのさくばをり親のまゝにさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり
さくばをり親をけりさくばをり親をけり

二才野ハ龍^{リウ}^{リウ}も橋のくゆさくは

琳理

かゝるにまきそくや有居むたちを

禹貢

鴻^{ホウ}居^キと板火の火^{ホカゲ}歌に味を見そめ

兎洲

象^{ゾウ}せこはく^{ハク}とち^チ合^カをい^イく^クあも^アと^ト先^{セン}む

己子もりい先く居め居にをこるうた
かゝるに佛の子にまむむうひけり
宝曆十はまり之はく一をふつそ中の二日
時正の日はたつめあうつそをこる
たひくはあむりそむがしらおる
終へべき件にふくむく細水被居るむ

たのこよめうせしとてみく子の居ハクは
おひひけりしとて先く居め居にをこる
とるはく回し居のかが居居ついでに
く居時にみくあふ居けりしとて

あやたそ

むく^{サカ}と^{サカ}糴^{サカ}也^{サカ}のこま^{サカ}と^{サカ}吾^{サカ}子^{サカ}と^{サカ}か^{サカ}お^{サカ}が^{サカ}そ

神を月つらとち居居か居居のり
戒けりし居居

青藍

おあゆまの居居とち居居の山居居

おあゆまの居居とち居居の山居居
おあゆまの居居とち居居の山居居

志ばや

まゝのあへしゝておこはあうたまふや

おる

玉の法をうのくしむるべこのたまはをい

寶曆十三癸未歲殊九月

吸露菴藏板

俳諧羽類集

涼休子撰
諸流發句集

五冊

片歌

道休子撰
二葉同書

涼休子撰二冊

芭蕉桐の一葉

二冊

同

茶花より道日

一冊

其角雜談集

二冊

同

舊宣集日

一冊

桑園集

桑園白扇著

三冊

新文要語

日

一冊

硯乃筏

紀逸輯

二冊

以し書より日

一冊

冬

桑園白扇著

二冊

寒葉齋畫譜

唐画のり五冊

根たし草

凡草の草

五冊

水乃ゆく糸

東作著五冊

志道軒傳

右日佐

五冊

俳諧不斷櫻

高直の白全

左傳屬事

南陽先生校
唐本翻刻

廿二冊

大明十三省圖
萬國一器界圖

二枚

龍門先生文集

二編

三冊

歷代事跡圖

大清吳君翰訂正
中華之大繪圖

一枚

大疑錄

貝原先生著

二冊

物類品彙

平賀鳩溪著
物産之書

六冊

經義折衷

金峩先生著
評朱子陽明仁齋集

一冊

十體千字文

篆及異體

一冊

陸賈新語

蘭臺先生校本

一冊

六體千字文

崑陵先生書

一冊

王元美尺牘

一冊

猿橋碑銘

諸名家之文
筆墨本

一冊

易學辨疑

金峩先生著

一冊

字畫淵海

筆法之書

二冊

大史華句

唐本翻刻

三冊

石印集誼

彫刻刀法

二冊

拋入花の園

古人の花
乃器式

三冊

寐惚先生文集

狂詩
小本

一冊

けり千筋藤

入玉藤
の作

又冊

小説土平傳

狂詩
小本

一冊

古言様

万葉集の詞
魚考撰

一冊

笑天府

唐ノオトニハナシ
小本

一冊

百人一首解

栗本氏作

一冊

唐明詩鍵

詩作ノ書
小本

一冊

久乃志久

古き文の細
邊刻

又冊

大東地名箋

詩作ノ書
小本

一冊

志乃や料理集

今席の
料理

一冊

詩學小成

詩作ノ書

四冊

民間備荒録

古の民と
料の書

二冊

又子法帖

松花堂の
書札

二冊

信濃地名考

古の地名考

三冊

常盤帖

松花堂の
書札

二冊

七觀音經	略緣起入	全	癘治茶篋	津田玄仙著	全
唐摹真本十七帖	明邢子京珍藏 東郊先生摹	全	外科撮要	青木經制子述	二冊
揮取先生社中之畫 諸名公楮體畫詩	遊戲画帖	全	西遊紀行		二冊
解體新書	向蘭陀腑分之書 杉田玄伯著	五冊	四溟陳人詩集		三冊
同	約圖	同右	五枚	郊華集	全
名物画譜	雪溪先生筆	三冊	繪本いろは歌	春信筆	三冊
市隱草堂集	安文仲著	五冊	繪本色紙の時	北尾重政筆	三冊
詩學楷梯	東里先生輯	四冊	誦諧名所方角集	谷素外輯	二冊

東都書肆

通室町三丁目

須原屋市兵衛

京寺町二条上丁

井筒屋庄兵衛

